

「番組の色や音のイメージを知ろう」の解説

監修：稲垣 忠 東北学院大学教養学部人間科学科准教授

小学校低学年のメディアリテラシー教育では、まずメディアから適切にメッセージを読み取ることが最初のステップになると考えられます。放送には、音声、音楽、映像などが組み合わされています。送り手が使用した映像や音声がどのようなものであるか読み取り、表現された事柄を理解することをメディアリテラシーのねらいとして設定されています。

教科としては生活科を取り上げています。生活科には、身近な自然と関わり、気づいたことを言葉や絵、劇などによって表現する活動が含まれます。子どもたちに季節の変化を意識させる教材として番組化した映像を用いたのがポイントです。実際に観察に出かける前の動機づけになるだけでなく、色や形、音など観察する視点を持つモデルとして映像を活用しています。

メディアリテラシー教育としてみると、色彩やカメラの向け方、音楽による演出などの技法に気づくことは、制作者の思いの存在に気づかせる一歩にもなります。さらに、自分たちで観察する際にカメラで記録することができれば、映像から読み取った技法を表現に生かす機会にもなるでしょう。